



No.123



八王子福祉作業所 施設の前で



五乃神学園 羽村市チューリップ鑑賞会にて



五乃神学園 ダイナミックリズム

INDEX

平成30年度第3回知的発達障害部会
総会報告…………… 2
「医療的ケア～学校現場での歩み、そして地域
へのアプローチ」…………… 3
SESSION!TOKYO050 …………… 4
第31回心をつなげる福祉マラソン大会報告… 6

平成30年度若手リーダー・リーダー候補者向
け研修報告…………… 7
施設紹介「五乃神学園」…………… 8
施設紹介「八王子福祉作業所」…………… 9
リレーコラム「ニーズに応えるということ」/
編集後記…………… 10

●発行所 知的発達障害部会 部会長 坂本 光敏

●編集 知的発達障害部会 広報委員会

●発行所  **東京都社会福祉協議会**

〒162-8953 東京都新宿区神楽河岸1-1 TEL 03-3268-7174 FAX 03-3268-0635

●東社協ホームページ (<http://www.tcsw.tvac.or.jp/>) からもご覧いただけます。

平成30年度 第3回 知的発達障害部会 総会報告

原町成年寮 高橋 千尋

新年初めての知的発達部会総会は坂本部会長の挨拶から始まり、行政説明では、東京都福祉保健局障害者施策推進部 施設サービス支援課長瀬川裕之氏、地域生活支援課長八木良次氏、施設サービス支援課課長代理（連絡調整担当）山口兼人氏、施設サービス支援課統括課長代理（障害者支援施設担当）安達美和子氏が登壇し、平成31年度予算案のポイントの説明がなされました。今年度の位置づけは「東京2020大会を推進力とし、東京から成熟都市として新たな進化を遂げ、成長を生き続けられるよう、未来に向けた道筋をつける予算」として、①局横断的な連携や、行政にはない新たな発想の活用により、「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」を実現するための戦略的な施策を積極的に展開する②ワイズ・スペンディングの視点により、自律的な都政改革を不断に推し進め、一層無駄の排除を徹底し、健全な財政基盤を堅持すること③東京2020大会の開催準備の総仕上げを着実かつ効率的に進めることの説明がありました。

次に、全国厚生労働関係部局長会議から平成31年度報酬改定、サービス管理責任者等研修の見直しについて、事業の開始の日又は施設の開設の日から起算して1年間は、研修を修了しているものとみなす規定を設けたことの報告がありました。また、障害者支援施設等支援力育成派遣モデル事業成果報告会についての報告もありました。議決事項では、平成30年度知的発達部会補正予算（案）について、平成31年・32年度知的発達障害部会役員体制、平成31年度知的発達部会事

業計画（案）、予算（案）の話がありました。報告事項では、表彰・叙勲受章者として江東園ケアセンターつばき えぼっくの杉啓以子氏が東京都知事表彰を受章されました。

講演では「医療観察制度の対象となった知的障害者の社会復帰に向けた取組」と題し、東京都心身障害者福祉センター知的障害者福祉司の川畑俊一氏を進行役、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター病院 第二精神診療部竹田康二医師、東京都保険観察所立川支部 社会復帰調整官西村真由美氏を講師に迎え、医療観察法とは何かという事から始め、社会復帰支援の為には、精神科医療の継続とともに、障害特性に合わせた生活環境（施設入所支援、共同生活援助等、日中活動支援）を調整していくことで生活の安定を図る必要があることの説明がされました。また、受刑者の20%が能力検査値70以下になっている事、重複障害を持っている人が多く、その中の約10～20%が知的障害であることの説明やクロザピンという治療抵抗性の統合失調症に処方可能な薬の説明もされました。そして、環境調整としてクライシスプランという症状が悪化した際にどうするかを記入してあるものがあることや指定入院医療機関退院後、通院処遇に移行した対象者の重大な再他害行為の発生率は低水準で推移している事、ケア会議も3か月に1回の頻度で行っている事の報告もあり、最後に今後も協力を依頼していくことで話は終了となりました。

「医療的ケア～学校現場での歩み、 そして地域へのアプローチ」

八王子市障害者療育センター 林 良介

東京都社会福祉協議会知的発達部会通所施設分科会と東京都障害者通所活動施設職員研修会の今年度第一回目の合同学習会が、11月10日、飯田橋セントラルプラザで開催されました。テーマは、「医療的ケア～学校現場での歩み、そして地域へのアプローチ」として、今回は、医療的ケアを要するお子さんを育て、ご家族としてのご経験から医療的ケア児の環境を改善すべく各方面へ尽力されている現衆議院議員予算委員長、野田聖子氏をお招きしての特別講演がありました。野田聖子氏からは、母としてのリアリティーあるお話と制度上の問題点を指摘しながらも、医療的ケアがあっても一人の子供として普通に接して欲しいというメッセージがとても印象的でした。基調講演では、前職の都立養護学校（現特別支援学校）にて医療的ケアの必要な児童の通学実現に尽力され、現在は全国各地で重度・重複障害児・者が自宅で生活する際の課題に関する学習会や喀痰吸引研修会など多方面でご活躍され、特定非営利活動法人 地域ケアさぽーと研究所の理事をされている下川和洋氏をお招きしてご講演いただきました。下川和

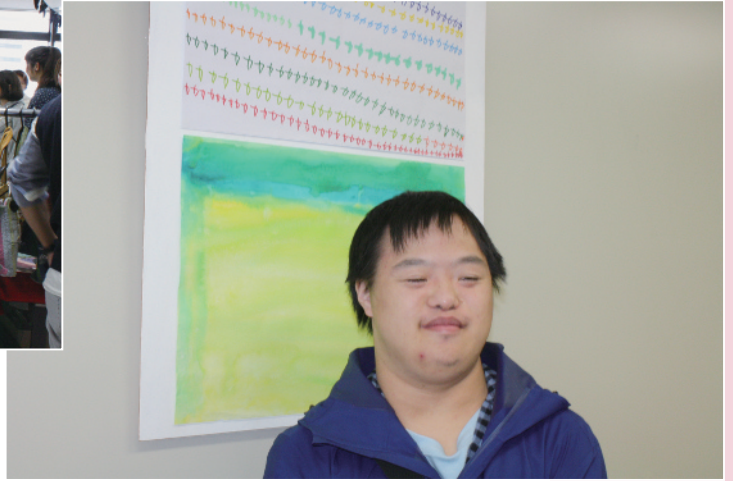
洋氏のお話は、とにかく軽快で楽しく、これまでの医療的ケアの歴史を映像とともに伝えてくださり、概念と実践がリンクしながらのお話は、とても勉強になりました。その後、下川和洋氏にも加わっていただき、東京都障害者通所活動施設職員研修会代表の藤田進氏のコーディネーターのもとでパネルディスカッションを行いました。重症心身障害者のグループホーム設立に取り組みされた社会福祉法人 昴 アドヴァンスの主任で看護師の吉田隆俊氏より、「良い施設ではなく、良い地域を作ろう」というお話と、医療的ケアの必要な重度・重複障害のある利用者の方々の地域生活を支えるために日々尽力されている医療法人社団はるたか会 子ども在宅クリニック あおぞら診療所のソーシャルワーカー 池田有美氏からは、ソーシャルワーカーの立場から、子どもの成長を中心にした仲間作りの大切さが語られました。施設職員だけでなく、ご家族や当事者合わせて100名を超える参加者が集まり、たくさんの刺激を頂いた研修会となりました。



SESSION

12/1 にセントラルプラザにて、2 回めの SESSION が開催されました !!!!





第31回心をつなげる福祉マラソン大会報告

実行委員長 我妻 弘

「心をつなげる福祉マラソン大会」は、昨年度が第30回という大きな節目でした。これを記念して新たに企画したTシャツデザインの公募や、民間企業ボランティアの参加呼びかけなどの取組みは大変好評だったため、今回の大会でも引き続き実施することとしました。一方、大会の運営方法については課題を指摘される点もあり、実行委員会としては準備段階から検討を進めてきました。

Tシャツについては、「走る」をテーマに障害当事者によるイラストデザインを公募したところ、8月上旬までに38点の楽しい作品の応募がありました。今大会のTシャツは、サムライブルーを意識した青のTシャツに白抜きでイラストや文字が入り、力強い印象となりました。

民間企業ボランティアは、昨年に引き続いてブルデンシャル生命保険（株）首都圏第4支社から25名、新たに東京ウエストライオンズクラブから7名の方に参加いただきました。このようにスタッフの構成が多様化したことを踏まえ、役割分担のグループごとに作業内容のマニュアルを用意しました。

こうした準備態勢のもとで、11月18日（日）

の大会は、ランナー194名と90名近くの伴走者が走るのを、実行委員・ボランティアを含むスタッフ約70名が応援する体制で開催しました。

荒川河川敷に会場を移して4回目の大会。当日は快晴で、走るには少し暖か過ぎるほどの好天でした。5kmのトップランナーのゴールタイムは19分22秒という快調なペースでした。今回は、コース整理のメンバー同士が連絡する手段としてインカムを導入したことでレースの進行が把握しやすくなり、円滑な大会運営ができたと思います。12時半の閉会式までには最後のランナーもゴールして、大会は無事終了することができました。

ただ、スタート・ゴール地点周辺の大島小松川公園は、一般市民の皆さんもバーベキューや散歩などで大勢が来場する場所であり、大会のコースである河川敷は、自転車や市民ランナーが多数通過します。今回、事故やトラブルは起きませんでしたが、会場周辺の人の流れをスムーズに整理することについては、今後とも一層の工夫が必要だと感じました。

これからも開かれた大会を継続し、さらに多くの皆さんの参加を期待しています。



平成30年度 若手リーダー・リーダー候補者向け研修報告

研修委員 澤口 翼

平成30年11月22日(木)・12月6日(木)の2日間に渡り、飯田橋セントラルプラザにて「アドラー心理学に基づく勇気づけのリーダーシップ」をテーマとして、ヒューマンギルド代表取締役の岩井俊憲氏を講師にお招きし、若手リーダー・リーダー候補者向けの研修を行いました。

各法人・事業所から最近リーダーになった方、これからリーダーになることが期待されている方にお集まりいただき50名を超える方々にお集まりいただくことができました。今回の研修では、普段は運営側として研修のサポートに回っている研修委員も一緒にグループに入って研修に参加させていただきました。

初日の研修ではグループワークを中心に最初は取材形式の自己紹介から始まり、その都度リーダー役を交代しながら勇気づけとは何か、リーダーシップとは何か、といったことを学び注意の与え方といったことを演習しながら学んでいきました。そして自分を変える・自己変革ということに関して学び次回までの課題として「わかっているけどやめられない、取り組めないこと」から1つ実際にやめる、取り組むことを宣言しパートナーになった方に報告をすることを決めて初日の研修が終わりました。

2日目の研修では、初日の最後の課題の報告が

ら始まりアドラー心理学の基本的な考え方を中心に動機付け、勇気くじき、勇気づけといったことについて初日同様リーダーをその都度交代しながらグループワークを中心に演習をしながら学んでいきました。

最後にリーダーとしての心構えを唱和し2日間に渡る研修が終了しました。

参加者からは

- ・どのようなリーダーを目指すのか、自分はどうなリーダーになれるのか、考えるいい機会になった。
- ・職員間だけではなく利用者さんへの注意の仕方、声掛けの仕方、保護者対応の仕方など業務に活かせることが多くあり改めて考えることが出来て良かった。
- ・否定的な言葉やマイナスの言葉を使いそうになった時には一呼吸おいてプラスの言葉を使うように意識したい。勇気くじきをしないようにしていきたい。

といった感想が寄せられました。初めて開催された研修でしたが得るものは多かったと思います。今回参加いただいた皆さんには各法人・事業所においてよりよいリーダーになっていただければと思います。



施設紹介

社会福祉法人コロロ学舎 五乃神学園

「施設概要」

社会福祉法人コロロ学舎が運営する五乃神学園は、羽村市初の入所支援施設として2013年4月に開所いたしました。入所支援(40名)を中心に生活介護(60名)、短期入所(5名)、放課後等デイサービス(10名)を運営しています。「誰一人として排除しない」という法人理念のもと、強度行動障害を併せ持つ重度の自閉症・知的障害の方を受け入れ、利用者さんが充実した毎日を過ごせるよう日々活動しています。

【活動内容】

五乃神学園では「コロロメソッド」に基づき療育を通して社会で生きる力を育てる支援に取り組んでいます。日々の活動の基本となるプログラムの一部をご紹介します。

・歩行トレーニング

歩くことは体幹保持、身体機能の分化促進、持続力の向上などを目標とするコロロメソッドの基礎トレーニングです。毎日20人程度のグループで1～2時間の戸外歩行に取り組んでいます。

・ダイナミックリズム(集団運動療法)

集団行動が苦手とされる自閉症児者の方々でも、無理なく楽しく、そしてすぐに集団行動ができるよう構成されたコロロ独自の療育プログラムです。音楽に合わせて「歩く・走る・動作模倣・フォークダンス」などの運動を行い、楽

しみながら自律行動や集団適応力の獲得を目指します。

・概念学習

成人期においても、ことばの理解とコミュニケーション力の向上を目的とした概念学習は欠かすことができません。脳を鍛え活性化させるためにも、日々の生活の中に学習活動を盛り込んでいます。

【イベント・地域活動】

日々の療育活動の成果は充実した余暇活動に繋がっています。その一つが旅行会です。五乃神学園では毎年1～2泊の旅行会を実施しています。利用者全員が飛行機に乗り、北は北海道、南は沖縄まで日本全国の名所やグルメを楽しんできました。次の目標は海外です！旅行会以外にも、運動会や学園祭、外食会、四季折々の季節行事など様々なイベント参加を楽しんでいます。

また、地域の方々との交流も大切にしています。地元の町内会が行う夏祭りや餅つき大会などに毎年参加させて頂いており、最近では「お、よく来たね！」などと温かい声をかけて頂けるようになりました。市の花植え運動に参加したり、市指定のゴミ袋封入作業を受注したりと、地域の一員として少しでも力になれるよう日々活動しています。

広報課 胡駿太郎



施設紹介

社会福祉法人武蔵野会 八王子福祉作業所

【施設概要】

八王子福祉作業所は昭和54年、都立の福祉作業所として八王子市台町の地に開設されました。そして平成19年に社会福祉法人武蔵野会に移譲、就労移行支援、就労継続支援B型の多機能型として運営が始まりました。平成29年1月元本郷町に移転、同年12月には生活介護事業も開始しました。

【支援方針】

八王子福祉作業所は、特に「働く」に重点を置いています。働く事によって、人から頼られ、人に必要とされ、感謝される幸せを感じられると考えています。

私たちは、法人の理念「自分を愛するように、あなたの隣人を愛せよ」という立場で利用者本位・利用者中心の姿勢を貫いています。心身にハンディのある利用者個々の尊重と人権を尊重・擁護し、利用者がその個性や能力を十分発揮し、日々の働く喜びや生きがいを見いだしています。そして、安心と満足を得ながら、心身のハンディの有無に関わらず、ごく自然に社会参加を図って行けるよう、きめ細やかな支援を実践しています。

【事業概要】

◇作業班（就労継続B型支援・生活介護）◇

八王子福祉作業所は、市内30社以上の会社との取引があります。ダイレクトメールや菓子箱、電子製品のリサイクルやパーツのパッキングなどの作業を行っています。毎日常に忙しいのですが、迅速で高品質な「福作プライド」で高い信頼を得ています。

◇製菓班（就労継続B型支援）◇

製菓班は洋菓子を作製・販売しています。指導者は東京都洋菓子協会多摩支部会長四谷氏。移転と同時にカフェもオープンしました。吹き抜けの高い天井とモダンな作り、しっとりと落ち着いたスペースです。常に新しいケーキが店頭に並んでいるので、要チェックです。

◇ステップ班（就労移行支援）◇

ステップ班から、毎年10名以上の企業就労を成功させています。就労の為にプログラムに加えて、様々な作業や実習をする事によって、その人にあった職場探しとサポート体制の構築を図っています。万が一、離職した場合、必ず作業所に戻ってこられる事を約束しています。安心して巣立っていける理由の1つです。



「ニーズに応えるということ」

特定非営利活動法人たんとの会 事務局長 郡司晴雄

「共に働き、共に成長し、共に輝く」私どもの法人理念の言葉です。この「共に」という言葉には皆が支えあって生きていくという根底にある考え方があります。

障がい者福祉に従事して20年が過ぎましたが、その間も様々な方と出会い、支えられ、私なりに前進し変わってきたと思っています。

自立支援法、障害者総合支援法と移り変わり福祉の制度も様変わりしました。

無認可の小規模作業所時代を経て法人格を取得して法人、事業所の特色を出して運営されるように変わりました。

私が福祉従事者として気を付けていることの一つに利用者様、保護者様のニーズにどう応えていくかと言うことです。特に法人経営に携わるようになりその気持ちは強くしております。当たり前なことと思われるかもしれませんが、これがなかなかの難事だと感じております。皆様からの意見に耳を傾けてみると「これはニーズではなく、わがままなんじゃないかなあ?」と感じることもあります。ご本人の希望、我が子の生活をより良くした

いと願う思いからすれば当然なことです。ですから私は常々、利用者、保護者の皆様には「どんどんわがままを言って下さい。そのボールを私たちが打ち返すことが出来れば、それはニーズに変化しますし他の方全体へも広がっていきます。事業所の力にもなります。またそのボールを打ち返せなかった時は、時期尚早で法人に力が無いか…」とご説明しています。そのようにして何も無い中から朝夕の送迎サービス、北海道等の大型旅行など一つ一つ手作りでご意見を形にして参りました。このコラムが皆様の元にお届けされる頃には、新しい事業所が一つ増えている予定です。これもある保護者様からの「部屋が狭くなったね」の一言からです。

ニーズにお応えすることは、法人やそこに携わる支援員が、今まで以上に柔軟な思考を持つことが大切だと思います。50年、100年先の制度などはどう変わっていくかなどはわかりませんが、利用者様に寄り添い共に成長していける福祉従事者であり続けることは不変でありたいと願っています。

次回は、清瀬福祉作業所 蜷川大輔氏のコラムです

編集後記

桜も花開き、卒業式も執り行われている季節です。入学式に向け、街中がワクワクしています。

皆様の施設に置かれましても、新しい利用者さんがいらっしゃる準備で大忙しと思います。その中で利用者さん・職員も新しい生活を始める方が多い季節、心浮かれる季節となりました。これから新しい生活を始める方、また来年度も頑張ろうとしている方にとってよりよい1年になる事を願っております。

C.T

